

平成30年度 清原南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に、知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し、日本の伝統や文化を大切に、平和な国家の形成者として、21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子どもを育成する。

たくましい子	元気に運動し、健康でたくましい心と体をつくる。
思いやりのある子	ルールやマナーを守り、協力して生活する。
よく学ぶ子	基礎・基本を身に付け、進んで学習する。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と、142年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち、子どもへの愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み、自らの資質を高め、教育目標達成のために全力を尽くす。

また、先人に感謝しつつ、母校への誇りと自分の尊厳を高めるような教育活動を展開し、子どもたちに「未来を拓く人間力」を身に付けるため、児童・教職員・保護者・地域が連携し「地域に開かれた信頼される学校づくり」・「清原地域学校園小中一貫教育」を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれた信頼される学校づくりの推進
- (2) ○清原地域学校園構想に基づいた小中一貫教育の充実
- (3) 高い指導力と情熱を持った教職員の人材育成
- (4) 基礎学力の充実
- (5) ○言語力や読解力の育成
- (6) 特別支援教育に対する理解と専門性の向上
- (7) ○社会性の醸成
- (8) ○健康や体力の増強・食育の推進
- (9) 家庭や地域との連携の強化

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて、主体的に取り組む児童生徒の育成
～キャリア教育（生き方）を核として～

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学 校 運 営】○清原地区地域学校園構想と小中一貫教育としての取組を充実させ、子どもたちの「生きる力」を育み、職員間の連携を深める。
- 【学 習 指 導】○自分の考えをもち、生き生きと表現する子どもの育成に努める。
- 【児 童 生 徒 指 導】○規範意識を高め、思いやりの心をもって行動する児童の育成に努める。
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○自ら積極的に運動し、健康でたくましい心と体をつくろうとする児童の育成に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は子どもの悩みを把握し、効果的に教育相談を実施したり、活気ある活動を充実したりする。 1 教育相談の充実及びQ—Uテストの活用により、児童同士の人間関係づくりに努力する。 2 学校行事や児童会活動・委員会活動において児童主体の活動を推進・工夫し、学校生活に潤いを与える。	B	【達成状況】児童肯定的回答 90.1% ・1では、QUの結果を受け、円滑な児童の人間関係を構築するために職員研修を実施し、教育相談に生かした。 ・2では、地域学校園の中学校と協力してあいさつ運動を行ったり、縦割り班活動で異学年交流をしたりして、高学年を中心に児童主体の活動を充実させることができた。 【次年度の方針】 ・1では、教育相談などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・2では、引き続き、あいさつ運動や縦割り班など、児童主体の活動を推進する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 80%以上	教職員は児童が自己充実感をもって学校生活が送れるよう教育活動を工夫する。 1 学習内容定着度調査の結果をもとに、本時のねらいを児童に分かるように提示し、個に応じた指導と学び合いのある分かる授業を目指す。 2 積極的・組織的な児童指導を充実し、規範意識を高める。	B	【達成状況】児童肯定的回答 96.3% ・1では、学習のねらいや内容の重点について学年内で確認し合い、児童の実態に即した効果的な学び合いの形態の検討と改善を図った。また、ユニバーサルデザインの視点に立った指導の工夫について全校体制で取り組み、分かりやすさと安心感のある授業づくりに努めた。 ・児童が見通しをもって学習に向き合えるよう「めあて」と「振り返り」の意識づけを大切に授業を行った。 ・2では、学習が成立するための、集団における大切なきまりについて共通理解を図り継続指導を行った。 【次年度の方針】 ・1では、引き続き国・県・市の学力調査の結果について全教職員で多面的に分析・考察することにより、教師一人一人が自校の目指す方向を確認するとともに、課題解決に向けた方策を共有できるようにし、何を、いつ、どのように取り組むのかを具体的にしていく。 ・2では、学習指導と児童指導の連携を図り、発達段階を考慮した上で一貫した指導が行えるようにし、教育活動全般における規範意識を高めていく。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 児童肯定的回答 80%以上	児童情報交換会を活用して全職員が共通の認識をもちながら、さまざまな場で子どもにかかわり、それを児童情報交換会で報告する。 1 「清原地域学校園の方針・約束・一日」を積極的に活用する。 2 下校集合時にきまりやマナー、安全面について全体に指導をする。	B 【達成状況】児童肯定的回答 83.5% ・1では、「清原っ子の約束」と「清南3つの約束」を、各教室に掲示し、年度始めに児童に周知すると共に、日常的な指導に役立てた。 「清南3つの約束」から重点目標を具体的に設定し、児童への意識付けが図られた。 ・2では、学年下校や集団下校の際に、全職員で天候や安全面の状況に応じた全体指導を行った。 【次年度の方針】 ・1では、次年度は「清原っ子の約束」を全児童に配付し、家庭にも周知を図っていく。具体的な目標である「清南3つの約束」を設定し、指導と評価を行っていく。 ・2では、全体指導を継続して行うと共に地区担当者が個別に指導する時間を設ける。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	発言やノートの記事等から、一人一人の学習状況を見取り、適切に支援するとともに、友達同士学び合う場を設定した授業を行う。 1 習熟度別学習等、個に応じた指導と学び合いの場面を設定する。 2 児童が学んだことを実感できる振り返りの場を設定し、授業改善に役立てる。	B 【達成状況】児童肯定的回答 95.8% ・1の習熟度別学習では、児童が自分に合ったコースを選択しながら効果の上がる学習ができるように適切な支援を行い、子どもの声に応える丁寧な指導に努めてきた。 ・2では、振り返りの活動がその後の学習につながっていくよう、ノートやワークシートのまとめ方を指導するとともに、学びの成果が連続するような教材・資料の提示を工夫してきた。 【次年度の方針】 ・1では、発達段階に応じて授業における学び合いの形態を工夫し、多様な交流の中で児童が活発に意見を交換できるようにしていく。 ・2では、振り返りが学習内容の定着と学力向上に結びつくよう、習熟を図るための活動を充実させる。 ・また、学校公開日の授業や保護者懇談会で、学校の方針や指導の実践について積極的に保護者にも発信をし、理解・協力を得る。

A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 児童肯定的回答 80%以上	いじめの未然防止、早期発見及び早期解消のため、児童理解に努め、信頼関係を築く。 1 年2回の「いじめゼロ強調月間」では、児童会によるいじめゼロ集会や標語の募集、関連する道徳の授業を実施する。 2 日頃より児童の様子を観察するとともに、学級活動及び日常生活の中でいじめは許されない行為であることを継続的に指導する。	【達成状況】児童肯定的回答 98.0% ・1では、児童会を中心とした集会活動や各学級でのいじめに対する取り組みを発表したり、いじめゼロスローガンを決めたりすることで、いじめに対する児童の意識を高めることができた。 ・2では、ふわふわ言葉の推進とちくちく言葉の禁止など言葉遣いに関する学級活動を各クラスで実施するとともに、いじめアンケートやハートタイムを実施することを通して、いじめの早期発見に努めた。 【次年度の方針】 ・1、2では、いじめアンケートやいじめゼロ強調月間を引き続き実施し、児童会によるいじめ根絶集会やいじめに関する道徳の授業等を継続して行い、いじめは許されない行為であるという意識を高めていくとともに、いじめに繋がる場面で立ち向かえる心を育てていく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている。」 保護者肯定的回答 80%以上	時数管理を適切に行い授業にじっくりと取り組める環境を生み出す。 1 授業時数を確保し予備時数を有効的に活用する。 2 土曜授業の趣旨を踏まえ、教育活動の充実に努める。	【達成状況】保護者肯定的回答 97.7% ・1では、創意工夫により授業時数が確保できた。予備時数も学習の振り返りや定着に活用できた。 ・2では、地域や保護者との連携を図り、児童会活動や引き渡し訓練、持久走大会等、充実した教育活動を行った。 【次年度の方針】 ・1では、適切な時数の確保と日課の工夫によって、より充実した教育ができるようにする。 ・2では、土曜授業の趣旨や本校の特色を踏まえ、計画的に年2回土曜授業を実施する。特に1回目は教科の授業公開の後に避難訓練や引き渡し訓練を行う。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 保護者肯定的回答 80%以上	学校・児童のよさを家庭・地域に積極的に発信していく。 1 学校公開を積極的に行う。 授業参観 学校公開日 土曜授業 運動会 清南持久走大会 音楽集会・委員会活動発表 清南まつり 他 2 学校・学年・学級だよりや各種通信、ホームページを通して定期的に情報を発信する	【達成状況】保護者肯定的回答 97.7% ・1では、定期的に学校公開日や主な学校行事等を保護者や地域住民に知らせるなど、情報発信を積極的に行った。また、地域協議会の方にも授業参観や会食、清南まつり等の行事に参加してもらい、学校の様子を伝えられた。 ・2では学習だよりや児童指導だよりに加え学級だよりも定期的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・1では、公開の時期や方法を工夫し、地域や家庭との連携を前面に出すなど、学校への理解をより深めていくようにする。 ・2では、発信する内容を充実させ、ホームページの更新もより積極的に行うようにする。

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 保護者肯定的回答 80%以上	学習ボランティアや企業と積極的に連携を図った教育活動を行う。 1 学習ボランティアを計画的に導入し、授業への参画を図る。 2 <u>地域協議会や清原地域学校園と連携を図り、外部人材の活用を推進する。</u>	【達成状況】保護者肯定的回答 94.7% ・1では、計画的に家庭、地域と連携を図り、教育活動の充実に努められた。 ・2では、コーディネーターを介して家庭科のミシンや水泳指導時の見守り等に活用が図られた。 【次年度の方針】 ・1では、ボランティア団体や人材バンクの整備と活用を図り、授業を充実させていく。 ・2では、学校支援ボランティア年間活用計画の更なる充実を図る。また、新たな人材の発掘も進めていく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は清掃がしっかり行われ、学習しやすい。」 児童肯定的回答 80%以上	環境の美化に努める。 1 日々の清掃活動について振り返るとともに、学級活動の中で清掃の仕方や心構えを身に付ける。 2 学校支援ボランティアの協力を得ながら、季節に応じた潤いのある環境を整備する。	【達成状況】児童肯定的回答 86.1% ・1では、清掃活動中に清掃の仕方や心構えについて理解させ、清掃に取り組ませることができた。 ・2では、掲示係や環境委員会を中心に、掲示計画を立て、環境を整備することができた。 【次年度の方針】 ・1では、身支度や清掃用具の使い方など、清掃の仕方について共通理解のもと、徹底を図るようにする。 ・2では、掲示係を中心に掲示計画を立て、潤いのある環境づくりに努める。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」「学校は小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 児童・保護者肯定的回答 80%以上	学校園全体研修会や各部会等で研修に努め、充実した取組を行う。 1 中学校教員の6年生に対する乗入授業を通して、中学校の学習に対する明るい展望がもてるようにする。 2 学校園あいさつ運動により、中学生との交流を図り、コミュニケーション力を高めるようにする。	【達成状況】児童肯定的回答 90.9% 保護者肯定的回答 88.0% ・1では、中学校の教員が6教科にわたり計画的に乗入授業を実施し、回を重ねるごとに学習に対して明るい展望がもてるようになった。 ・2では、学校園あいさつ運動を年に3回実施し、中学生とのコミュニケーションを図ることができた。 【次年度の方針】 ・1では、学校園内で他の行事との日程調整を図り、分かりやすく意欲がもてる学習内容の改善を図っていく。乗入授業の回数は年3回とする。 ・2では、年3回のあいさつ運動を継続し、より一層の中学生との交流を深めていく。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケートの「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。」 教職員肯定的回答 80%以上	学校経営方針について共通理解を図り、組織的協働的に校務に取り組むようにする。 1 効果的な分掌配置により、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが互いの役割を明確にし、効率的に校務に取り組むようにする。 2 教育活動に関する情報を互いに共有することで、教育活動の質の向上を図りつつ、教職員の業務の軽減を図るようにする。	【達成状況】教職員肯定的回答 80.0% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフがお互いに協力し合い、それぞれの立場を生かし校務に取り組むことができた。 ・2では、教育に関する情報を共有することで、必要な手助けができるなど校務の軽減が図れた。 【次年度の方針】 ・1では、互いにその専門性をより明確に理解し、さらに効率よく校務に取り組めるようにする。 ・2では、日頃から教育に必要な情報の共有化を図り、活用しながら質を高めることによって更なる業務の軽減を図っていく。

教育活動の状況	A	A 12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケートの「教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。」 教職員肯定的回答 80%以上	教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが、自らの専門性を十分に発揮し、「チームとしての学校」の教育力を発揮できる体制をつくる。 1 教職員と多様な専門性を有する学校スタッフの間で、課題意識等の共有を進め学校におけるチームとしての取組を推進していく。 2 学年・ブロックの枠にとらわれないプロジェクトチームを意図的に設定し、OJT を充実させるとともにコミュニケーションの活性化を図る。	B	【達成状況】教職員肯定的回答 96.0% ・1では、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフは共通の課題を双方の立場から解決しようと意見を出し合い、主体的に取り組めた。 ・2では、わくわくタイムを利用したM I Mへの取り組みなど、枠にとらわれないチームを結成し取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・1では、学校課題を共通の課題としてとらえ、自分が主務者という意識がもてるようにしていく。 ・2では、教育活動全体を通して積極的に関わることで、意見の言えるチームの一員として、よりよいコミュニケーションが図れるようにしていく。
		B 1 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 80%以上	全職員が授業を公開し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究を行う。 1 考えを深め合える授業研究会を目指した校内研修を行う。 2 話し合いの場を通して、同僚性を高める。 3 <u>地域学校園で連携を図り、研修を一層活性化する。</u>		【達成状況】教職員肯定的回答 100.0% ・1では、国語科を中心に新学習指導要領への移行をふまえた授業研究を実践し、課題の明確化や方策についての積極的な提案がなされた。 ・2では、同一の方向性のもと、授業の公開や協議を通し、授業力の向上に努めた。 ・3では、地域学校園での授業参観や小中乗り入れ授業を通し、情報を共有し合った。 【次年度の方針】 ・1、2では、各教科、領域に関する研修を充実させ、教職員の専門性を生かした授業実践を行うようにする。また、教科担任制を積極的に取り入れる。 ・3では、引き続き地域学校園の連携を図りながら進め、各校の指導に生かせるようにする。
	B	A 13 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 児童肯定的回答 80%以上	元気にあいさつし、場に応じた言葉遣いを指導する。 1 年に2回、児童会主催のあいさつ運動を実施したり、月に1回、南部地区総ぐるみあいさつ運動を実施したりすることで、意識を高めていく。 2 あいさつの習慣化を主体的に図るため標語の募集やポスターの作成を児童会が中心になって行う。	B	【達成状況】児童肯定的回答 91.6% 1では、年に3回のあいさつ運動で、地域学校園と連携し、中学生とあいさつ運動を行うことができた。 ・2では、児童会であいさつの習慣化を図るためのポスターを掲示することで、児童の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・1では、継続して来年度も地域学校園との連携を図り、より児童の意識を高めていく。 ・2では、「清南3つの約束」を基に具体的な目標を設定し、あいさつの意識付けを図っていく。

健康・体力	A14 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた正しい言葉づかいをしている。」児童・教職員肯定的回答 80%以上	学校や地域が一体となって場に応じた言葉遣いを指導する。 1 VT を活用した授業を取り入れ、場所や相手に応じて正しい言葉遣いができるよう啓発していく。 2 時と場に応じた話し方について全職員が共通理解を図り、正しい言葉遣いを指導する。	【達成状況】児童肯定的回答 80.5% 教職員肯定的回答 88.0% ・1では、外部講師や地域の人と関わる機会を生かし、適切な言葉遣いができるよう取り組んだ。 ・2では、言葉遣いについて、学校生活全体を通して、随時指導に努めた。 【次年度の方針】 ・1では、地域の方々と関わる機会を今後もより多く設けていく。 ・2では、異学年交流の機会を取り入れることを大切にする中で、他の教室に入るときあいさつの仕方や縦割り清掃の際などの言葉遣いを意識して使えるよう指導していく。また、各学級では授業を通して、話し合いにおける正しい言葉遣いなどを学んでいけるようにする。
	B2 全職員が子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している。」保護者肯定的回答 80%以上	すべての教育において子どもの人権を尊重した活動を行う。 1 教師自らが言語環境を整える。 2 人権週間に環境を工夫したり、人権に関する授業を実践したりして、人権意識を高める。	【達成状況】保護者肯定的回答 90.0% ・1では、教師の言葉遣いや行動が児童に影響を与えることを一人一人が自覚した上で、児童の模範となるような行動をするよう心掛けた。 ・2では、12月の人権週間に全学級でDVDを視聴し、人権意識を高める材料とした。さらに、人権教育に焦点を当てた授業を実践した。 【次年度の方針】 ・1では、次年度も児童の手本となるような言葉遣いに努めていく。特に、児童の呼称や指導の際には、十分に配慮していく。 ・2では、人権週間に限らず、日常の児童への指導を通して、教師自身の人権意識を高めていくようにする。
	A15 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は休み時間や放課後などに進んで運動している。」児童肯定的回答 80%以上	進んで運動ができるよう目標や行事を設定する。 1 持久走大会や鉄棒・水泳・縄跳び<u>検定等</u>で自ら目標をもって練習を重ねることができるよう教師のサポート体制を構築する。 2 「<u>うつのみや元気っ子プロジェクト</u>」のミニマム達成をねらって、運動量の多い体育の授業を実践していく。	【達成状況】児童肯定的回答 82.0% ・1では、個人の目標を設定し、運動への意欲を高めることができた。また、検定の項目内容を見直すことで、児童の実態に合わせた指導ができた。 ・2では、投力向上を図るため、ボーテックスを取り入れたり、検定表を用いて水泳や縄跳びに取り組ませたりすることで、運動に親しむことができた。 【次年度の方針】 ・1では、目標に向けて休み時間に積極的に外に出て体を動かすよう、共遊の時間を作ったり、声掛けをしたりする。また、児童の実態に合わせて、検定の項目内容の見直しを推進する。 ・2では、運動量を高めるため、発達段階に応じた運動についての情報を交換し合うなど、指導法の工夫を図る。

A16 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は好き嫌いなく給食を食べている。(きれいなものでも1口は食べている。)」児童肯定的回答 80%以上	コミュニケーションを通した食の大切さを啓発する。 1 各種たよりやお弁当の日などを通して、栄養や食材について話し合う機会を設ける。 2 懇談会、各種会合等を通し、食や生活習慣へのかかわり方の大切さを啓発したり、栄養士と連携を図った授業を工夫したりする。	【達成状況】児童肯定的回答 91.6% ・1では、食育だよりを発行したり、発達段階に応じたお弁当の準備をしたりして、食に対する関心が高まった。 ・2では、家庭科および学級活動の授業において食育を行った。給食委員会や図書委員会による紙芝居等で食事のマナーに対する関心意欲を高めることができた。 【次年度の方針】 ・1では、各種たよりや食に関するアンケートを通して、児童の給食の現状を知らせるとともに、食育の大切さを啓発する。 ・2では、引き続き栄養士と連携した授業を行ったり、学校保健給食委員会の推進を図ったりする。また、各学級で食育の徹底を図る。
B3 児童は、自分の体を大切にし、健康に気を付けて生活しようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、遊びや下校後うがい、手洗いをしたり、けがをしないよう気を付けたりしている。」児童肯定的回答 80%以上	自分の体は自分で守ることの大切さを指導する。 1 休み時間や下校後の手洗い、うがいや衣服の調整等を指導する。 2 養護教諭と連携し、保健の授業や学級指導の授業を充実させたり、保護者等への啓発を図ったりする。 3 遊びの中で、道具や施設の使い方やきまりを指導する。	【達成状況】児童肯定的回答 93.8% ・1では、手洗いやうがいについては、養護教諭、保健委員会での呼びかけを実施した。 ・2では、歯の健康教室や薬物乱用防止教室を行うことで、養護教諭と連携し、授業の充実が図られた。また、保護者へは、保健だより等で啓発を図ることができた。 ・3では、教職員が共通理解を図り、遊びの種類別にエリアに分けたことを周知徹底することで、けがの防止につながった。 【次年度の方針】 ・1では、今後も保健だよりを活用し、手あらいやうがいの励行を継続して指導していく。 ・2では、発達段階に応じた授業を実施するとともに、保健だよりや学校保健給食委員会等で保護者への啓発を図る。 ・3では、各学級で学校の決まりを確認し、けがのない安全な生活を送ることができるよう指導していく。

学 習 等	A17 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している。」 児童肯定的回答 80%以上	意欲的に取り組むような発問の工夫、教材の開発、学習形態等について、教職員同士で考えを提案し、実践する。 1 個に応じた作業プリントや教材等を工夫し、意欲的に授業に取り組むことができるようにする。 2 学習形態を工夫し、互いの考えを認め、学び合いができるように努める。	B 【達成状況】児童肯定的回答 91.4% ・昨年度と比較して、教職員、保護者、地域住民、児童生徒ともに意識の高まりが見られた。 ・1では、活動時に児童が自分の目標を明確にもち、その達成に向けて意欲がもてるようにめあて、課題、発問等の投げかけを工夫してきた。 ・2では、「多方面から考える、つなげる、広げる、深める」など児童の思考を刺激する課題の設定、支援の手立て、学習形態の工夫について、発達段階をふまえて系統的に進めるべく、授業を検証し合って改善に努めた。 【次年度の方針】 ・1では、ユニバーサルデザインの視点に立って焦点化、視覚化、共有化ができる板書やワークシートの工夫に取り組み、どの児童も考えを整理したり、発信したりすることができるように努める。 ・2では、必然性のある交流の場の設定と、児童同士の考えをつなぐコーディネート工夫をする。
	A18 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している。」 児童肯定的回答 80%以上	基本的な学習態度について、全職員が共通理解を図り、実践する。 1 話の聞き方・発表の仕方やノートの使い方について、指導の徹底を図る。 2 授業開始時刻を守り、学習の準備を行う等落ち着いて学習に取り組める態勢を整える。	B 【達成状況】児童肯定的回答 84.4% ・1では、「話し方・聞き方」「発言のしかた」（教室掲示）にしたがって授業中の望ましい学習態度の習慣化を図ってきた。 ・2では、児童指導部と連携し「清南3つの約束」を意識するなどして、校内同一歩調で、継続して指導にあたった。 【次年度の方針】 ・1・2ともに、引き続き、学習指導部と児童指導部が連携しながら、子どもが見通しをもち、安心して学習できるように環境を整える。
	A19 児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。」 児童・地域肯定的回答 80%以上	学校と地域が連携協力して、児童を育成する環境づくりを推進する。 1 地域行事の情報を積極的に収集するとともに、児童への称賛・励まし等の支援を意図的に行い、意欲を高める。 2 必要に応じて教職員が、参加・協力することで、地域との顔の見える関係を築く。	B 【達成状況】児童肯定的回答 82.6% 地域肯定的回答 95.0% ・1では、道徳の授業を通して、郷土愛やボランティアの精神について考えさせる機会をもつとともに、地域行事への参加の意欲付けを行った。 ・2では、地域、家庭と教職員の関係の構築に学校全体で携わってきた。 【次年度の方針】 ・1では、身近な場所での行事や自分たちにもできるボランティア活動があることへの認識を広めていく。 ・2では、教職員も積極的に地域と関わり、連携して児童や家庭への参加の啓発を行っていく。

	B 4 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「児童は、宿題や自主学習をすることが習慣化されている。」 児童・保護者回答 80%以上	「清原っ子家庭学習の約束」により家庭学習の習慣化を家庭と連携しながら推進する。 1 授業参観や懇談、学習だよりなどを通じて、機会あるごとに保護者へ状況を知らせ、理解・協力を依頼する。 2 家庭学習に対して称賛・助言・励まし等の支援を適切に行い、児童の課題意識・意欲を高めるようにする。	【達成状況】児童肯定的回答 82.2% 保護者肯定的回答 79.8% ・1では、児童向けに家庭学習への取り組み方「清原っ子家庭学習の約束」「家庭学習のすすめ」を示し、保護者へも理解と協力を呼び掛けた。 ・2では、目的が明確な課題を設定し、個人差に応じた助言、称賛、励ましをするなど、児童が自ら取り組んでいけるような工夫をした。 ・児童の肯定的回答率は数値的には達成したと言えるが課題は残る。保護者の肯定的回答率は目標値に達していない。 【次年度の方針】 ・1では、自分で課題を設定する力、見通して学習する力、予習・復習の大切さについて知らせ、保護者の家庭学習への意識を高める。 ・2では、帰宅後に自分で時間を設定して学習に取り組む習慣を意識づけるようにする。また、保護者との連携を図って家庭学習の状況を確認、把握し、適切な支援を行っていく。
本校の特色・課題等	B 5 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、読み聞かせなど地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上	1 本とのふれあい：朝の読書活動を充実するとともに、調べ学習を充実したものにする。 2 地域とのふれあい：<u>あいさつ運動や地域ボランティア、体験農園活動等を通して人間関係を深める。</u> 3 人とのふれあい：縦割り班活動や学校行事等を通し、リーダーシップ、思いやり、協調性などを育てる。 4 学習ボランティアの充実により、教育活動を豊かにする。	【達成状況】児童肯定的回答 93.8% ・1では、朝の読書時間を確保するとともに読み聞かせボランティアや司書のブックトーク、読書まつり等充実した活動が行えた。また、調べ学習がしやすいようにコーナーを設けた。 ・2では、地域の方々と共に活動する機会を年間計画に位置付け、多くの方とふれあう活動に取り組んだ。 ・3では、縦割り活動や学校行事等で異学年との交流を積極的に行えた。 ・4では、地域人材を有効に活用し、充実した学習活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・1では、地域から寄贈を受けた本を有効に活用し、学年に応じて本とふれあう機会をさらに増やしていく。 ・2では、お世話になった方々への感謝の気持ちを表す感謝の会を開きお礼のお手紙を渡した、地域ふれあい給食を実施したりする中で、さらに結びつきを深めていく。 ・3では、縦割り班活動や学校行事の内容をさらに充実し、思いやりの気持ちを育てていく。 ・4では、学習ボランティアに新しい人材を加えるなどして更なる活用を推進していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

○清原地域学校園構想としての取組みを充実させ、児童の「生きる力」を育み、教員間の連携を深める。

・「学校は、学校だよりや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」では、概ね目標が達成されている。今後もホームページの充実など引き続き情報の発信・提供をしていく。

○「学校は、小学生や中学生が連携した取組みを主体的に行っている」では、限定された行事ではあるが児童が新鮮な気持ちで取り組むことができた。事前の連絡なども含めて教職員間の連携もさらに深めていきたい。

・「私は、読み聞かせや体験活動等で地域の方とふれあいことは楽しい」では、地域の多くの方に支えられ充実した活動ができた。さらに、昨年度から実施している「地域ふれあい給食」を通して地域との結びつきを深めていきたい。

【学習指導】

○自分の考えをもち、生き生きと表現する児童の育成に努める。

・学力向上に向けた取組(国・県・市の学力調査結果に基づく自校の課題解決に向けた指導法の改善、個を大切にした指導、学びを実感できる学習形態の工夫など)についての評価指標はおおむね目標を達成している。引き続き、表現する力の育成を意図した授業の改善・実践と、子ども自身による表現を実現できる集団・学習環境づくりをし、学校公開日に具体的な取組みの状況を授業を通して発信する。

○家庭学習への取組については、保護者との連携に課題が見られた。地域学校園共通の「清原っ子家庭学習の約束」「家庭学習のすすめ」の内容を懇談会で話題に挙げながら、家庭学習の目的や学力定着への効果について理解を得ていく。

・地域との関わりを題材とする内容を取り入れた授業や、地域の方々と身近に接することのできる活動を通して、教職員と児童がさらに地域との結び付きを強め、親しみをもって地域のボランティア活動や行事に参加していけるようにする。

【児童生徒指導】

○あいさつ運動を始め、児童間のコミュニケーション能力を高める活動を通して、自分で判断し行動する児童の育成に努める。

・「児童は、進んであいさつをしている」の評価項目では、中学校との連携を図り、あいさつ運動を行ったり、ポスターを掲示したりするなど、児童のあいさつに関する意識を高めることができた。また、地域総ぐるみあいさつ運動を行うなど地域と連携したあいさつ運動を展開することができた。

・「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている」の評価項目では、児童に「清南3つのやくそく」に基づいて、生活の様子を児童自身が振り返りの機会をもてるようにしたことで、児童の意識が高まってきた。登下校時の決まりや安全面での指導についても継続して指導を行っていきたい。

○「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の評価項目では、道徳の時間や児童会活動を通して、いじめに対する児童の意識を高めることができた。また、言葉遣いに関する学級活動を各クラスで実施するとともに、いじめアンケートやハートタイムを実施し、いじめの早期発見に努めたことにより、目標を十分に達成することができた。

○「全職員が子どもの人権を尊重し、法令を遵守しながら職務を遂行している」の評価項目では、教師自身の言動が児童に影響を与えることを自覚して、児童の模範となるような行動をするよう心掛けた。人権週間では、全学級でDVDを視聴し、人権意識を高める材料とし、人権教育に焦点を当てた授業を実践したことにより、児童の人権に対する意識の向上が図れた。

【健康・体力】

○楽しく体力づくりができる環境や健康について、学ぶ機会を充実させ、自らの健康や体力づくりに積極的に取り組む児童の育成に努める。

・「児童は進んで運動する習慣を身に付けている」の評価項目では、さらに進んで運動する児童を増やすために、個人の目標を設定するための検定カードやワークシート等の内容項目を見直したり、効果があつた指導法の情報交換や資料の回覧などを積極的行ったりしていく。

・休み時間や放課後の運動に関する評価項目では、引き続き指導の継続を図る。

・「児童は栄養のバランスを考えて食事をしている」の評価項目では、お弁当の日の実施により食に対する関心が高まった。また、児童にバランスよく栄養を摂取することの大切さを指導したり、嫌いなものでも一口食べるように励ましたりすることにより、少しずつ好き嫌いなく給食を食べられるようにしていく。さらに食育だより等で児童の給食の実態を知らせるとともに、食の大切さについても保護者への啓発を図っていく。

6 学校関係者評価

- ・児童が元気で明るく、ボランティア等で来校した時、とても気持ちよく感じる。
- ・児童のあいさつ、マナーはすばらしい。しかし、中学、高校と良くない点が目立つようになるのは残念である。今後も、マナーを身に付けるよう小学校でしっかりと指導してほしい。
- ・素直にあいさつできる児童が多い。中学校に行ってもできるよう、声かけを行っていきたいと思う。また、そのためにも顔の見える関係を築いていくことが大切である。
- ・登下校等のあいさつは、班長が元気よくできると下学年の児童もできるようになる。今後も高学年児童のリーダーシップを育んでいくとよい。
- ・児童が活発で明るい。以前に比べて、積極性も増したように思う。縦割り遊びもよくできていて、学年を問わず仲がよい。高学年児童が、よく下学年の面倒を見ることができ、思いやりの心が育っている。
- ・児童は地域の行事によく参加しているが、準備段階での参加は少ない。親が一生懸命に頑張っている姿を、児童にも見てほしい。そして、将来地域に貢献できるようになってほしい。
- ・通学距離が長いせいか、登下校の仕方に課題が見られる。学校、地域、家庭で連携して、交通安全指導に取り組むことが大切である。
- ・地域でも外遊びをしている児童を見かけるが、自転車やスケートボードなど、スピードを出し過ぎていて危険である。
- ・家庭学習（宿題）は学年や学級によってばらつきがある。質・量の検討が必要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校だよりや学校公開などを通して、地域に開かれた学校づくりに努めることができた。保護者や地域の方は学校を信頼し、ともに歩んで行くという意識が高く、本校の教育活動にボランティア等として積極的な支援を得ることができた。今後も学校への理解をさらに深めていただけるよう、本校教育活動の様子や児童のよさや地域・家庭と連携した活動について、積極的に情報を発信していく。
- 学習指導及び児童指導に関する教職員の取組に対して、概ね肯定的な評価がなされている。今後も児童が明るく元気に学校生活を送れるよう、教職員と多様な専門性を有する学校スタッフが、自らの専門性を十分に発揮し、「チームとしての学校」の教育力を発揮しながら協力して指導に当たり、信頼される学校づくりに取り組んでいく。
- 学力の向上に向けて、個の学びや学び合いを充実させ、分かる授業の実践に取り組んできた。今後、新学習指導要領への移行を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導方法を研究し授業改善に取り組んでいく。
- 家庭学習の習慣化については、今後も「清原っ子家庭学習の約束」を活用し、家庭と連携して継続取り組んでいく。また、その際に児童が意欲的に取り組める課題設定や方法を指導したり、取組に対して助言・称賛・励まし等の支援を行い、さらに意欲を高めたりする。
- いじめ対策については、未然防止・早期発見・早期解消のために学校生活アンケートやハートタイム（教育相談）を継続し、児童理解に努める。また、学校でのこれらの取組や児童会での取組（いじめゼロ集会等）を児童指導だより等で積極的に発信していく。
- 学校全体に落ち着きがあり、子どもたちは明るく元気に過ごしており、時と場に応じたあいさつも身に付いてきている。これからも地域の教育力を生かしながら、保護者とのよりよいコミュニケーションを図り、児童指導の推進に努めていく。
- あいさつについては、校内における日常の指導をはじめ、中学校と連携した学校園あいさつ運動や、地域と連携した清原南部地区あいさつ総ぐるみ運動により、今後も意識を高めていく。
- 学校生活における安全に関する指導を継続して行うとともに、登下校時の交通安全については、地域・家庭と連携を図りながらさらに充実した指導ができるようにする。
- 健康や体力に関する取組では、運動への意欲を高めるために、検定カードやワークシートの活用を工夫し、運動に親しむ環境を整えることができた。今後も、体育の授業だけではなく、休み時間や放課後等も積極的に体を動かす機会を増やしていくことができるよう、子どもの意識を高めていく。
- 食については、学校給食を通して栄養のバランスを考えて食べる意識を高め、食育の推進を図るとともに、学校と家庭が連携し、食の大切さを十分に指導していく。